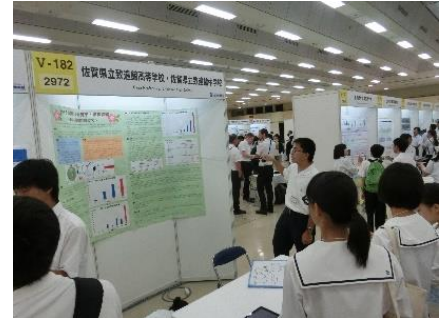




「平成30年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」に参加しました

8月8日(水)～9日(木)に、神戸国際展示場で「平成30年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が開催されました。全国のSSH指定校および過去に指定経験のある学校(208校)並びに海外招聘校(26校)の代表生徒がポスター発表を行いました。本校からは、科学部2年生の西耕史君、1年生の高丸佑月さん、館川昭光君が参加し、「サクラの葉による発芽・成長抑制 ～新しい農業に向けて～」の研究発表を行いました。



審査委員長の重松敬一先生が、全体講評の中で次のようなアドバイスをされました。皆さんの研究活動や探究活動にも活かして欲しいと思います。

- 高校生らしい研究をお願いしたい。
 - ・魅力的で、しっかり身近なものなど見つめた研究タイトル
 - ・アイデアや実験が弱いものもあった。失敗してもよいので、高校生らしくチャレンジあるものをお願いしたい。
- 先行研究との違いを明確にしてほしい。
 - ・特に、先輩からの継承研究では、自分たちの独自性を強調してほしい。
 - ・自分たち自身のきっかけが大切。
- 仮説と結論を明確に示してほしい。
 - ・問いや仮説、結論、それらの関係が不明確なものがあった。
- 研究手法の妥当性に配慮してほしい。
 - ・誤差、ばらつき、条件制御に対する考察が研究の差になって表れている。
 - ・使った道具、例えば、ソフト名などの記述が必要である。
 - ・生物統計など統計的処理には気をつけてほしい。
- 発展的考察にも配慮してほしい。
 - ・結果の評価、考察からの追試やさらなる発展への検討もほしい。
- 調べ学習で終わっていないか。解決から次の仮説が生まれて探究が深まる。

「科学の甲子園佐賀県代表選考会(予選)」が行われました

8月9日(木)に、平成30年度「科学の甲子園全国大会」佐賀県代表選考会が、致遠館高校を会場として行われました。今年度は、1年生のチーム6人が、理科・数学の筆記競技に挑みました。佐賀県代表選考会(本選)への出場権は逃しましたが、次年度に向けてこの経験を生かしてほしいと思います。

「第20回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会(佐賀大会)」に参加しました

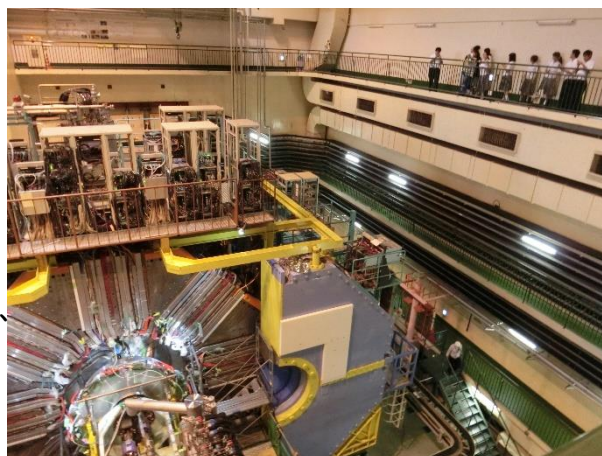
8月16日(木)～17日(金)に、佐賀市文化会館で「第20回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会」が開催されました。この大会では、中国・四国・九州地区の理数科の生徒が、日頃の課題研究の成果について、ステージ発表(全16件)とポスター発表(全57件)を行いました。

本校からは、3年生の田中泰土君、江村真珠さん、野田ららなさん、古賀裕梨君、案西真生さん、枝國結衣さんによる「播種密度の発芽にもたらす植物ホルモンの影響」の研究が発表されました。



「研究所研修」を実施しました

8月19日（日）～21日（火）に、理数科1年生希望者を対象として、最先端の科学技術に触れ、自然科学分野に対する見識を深め、研究活動についての意欲を高めることを目的として、つくば市で「研究所研修」を実施しました。「サイエンス・スクエアつくば」、「地質標本館」、「サイバーダインスタジオ」、「理化学研究所」、「筑波宇宙センター」、「物質・材料研究機構」、「土木研究所」、「筑波実験植物園」、「高エネルギー加速器研究機構」のご協力をいただき、27人の生徒が、研究施設を見学し、研究・開発についての説明を聞いて、充実した研修を行うことができました。



Belle II測定器の見学（高エネルギー加速器研究機構）

生徒の感想

- 「粒子が衝突する施設を実際に見学することができ、そのスケールとテクノロジーに圧倒された。普段は放射線の影響で立ち入れないスペースに入ることができ、本当に貴重な体験だった。別な研修で見学した超伝導が利用されていることを学び、技術がつながっていることを感じた。」
- 「ネオジム磁石やセラミックスの研究など、目に見えないくらい微細な現象を対象として研究されていることが素晴らしいと感じました。」
- 「実際に見学することで、舗装やダムの研究について理解できました。道路の舗装一つ一つにいろいろなことが考えられていて、いろいろな技術がつままっていることに気付かされました。」
- 「自分は理学関係に進みたいと思っていましたが、研修を通して、工学にも興味を持ちました。改めて進路についてしっかり考えなおしてみようと思います。」

「キュリオシティセミナー」を実施しました

8月21日（火）に、致遠館中学2年生を対象として、「キュリオシティセミナー」(curiosity: 好奇心)を実施しました。この講座は、中学3年生での「Jr. 課題研究(サイエンス)」での探究活動に向けた準備学習として取り組んでいるものです。生徒は、高校・中学の理科教員の指導による6つの講座から選んで、実験・演習に熱心に取り組みました。



「大気圧を体験しよう」(貫松先生)



「物質の三態と低温の化学」(大久保先生)



「チョウの標本づくり」(二村先生)



「カメラの製作」(大坪先生)



「風船の落ち方を科学しよう」(中川先生)



「ポテト統計学」(田中先生)